

佐世保中央病院広報誌

はばたき

Sasebo Chuo Hospital
Public Relations
Magazine

HABATAKI



vol. 187

2026
秋号

医療を通して人を知る

特集

肺がん

絵 = MOCO

人の数だけ違う、病気のあれこれ。
その人だけの思い。それでも、生活は続く。

特集

肺がん

取材・文＝梅本真実
写真＝中村友香

患者さんインタビュー

大好きな農業をいつまでも



西海市西海町で妻、長男とみかん・びわ農家を営む一瀬利久さん(72)。真つ黒に日焼けした腕が、日々の営みを物語る。昨年肺がん手術を受け、今も術後補助療法中。びわの収穫を終えたばかりの5月中頃、眼下に大島の海を180度望むご自宅で話を伺った。

念のため、の痰検査で

市

の健診は毎年欠かさず、かつてヘビースモーカーだったこともあり肺がん検査の一つ「喀痰検査」も受けていた。昨年6月も、いつもと同じように受診。2カ月後、喀痰検査の再検査通知が届いた。すぐにかかりつけ医へ行き、当院にて精密検査。気管支鏡検査で肺の入り口にがん疑いありとの結果が出た。「痛くも苦しくもないから気づかなかった。念のためと痰検査をしていて本当によかった」と振り返る。

※₂ PET-CT検査で転移がないことを確認し、11月に手術。

術後は再発予防のため抗がん剤治療(4週間毎・全4回)を受けた後、免疫チェックポイント阻害薬による治療が続けている(3週間毎・全16回)。

あと10年は生きたい

夏

に病気が分かったが、秋に控えたみかんの収穫が気がかりで収穫後の手術を希望。そう決めたものの、手術を待つ間が一番苦しかった。「まだ死なれん。あと10年

※1 がんの再発や転移のリスクを減らすため、手術後に行う追加治療

※2 がん細胞の活動を画像化し、全身のがんの有無や転移、治療効果を評価できる精密検査

※3 体に備わる免疫細胞の働きを活性化させる治療薬。自身の免疫システムを強化させ、がんを排除する

は生きたい」という思いを抱えながら、毎日畑へと向かった。

受けた手術は、当院が注力する低侵襲手術「単孔式胸腔鏡下肺切除術」。脇腹など1カ所にだけ4 cm程の小さな穴を開け、がんを取り除く。「痛みは全くなし」と一瀬さん。1週間入院し、退院後すぐに仕事を再開した。

抗がん剤にはためらいもあったが、再発への不安が募り無理してでも受けようと決心。家族が背中を押してくれた。味覚障害や吐き気、手足のしびれに脱毛。副作用の中でも、脊

椎の節々の痛みが毎回一番辛かった。白血球は激減。感染症対策に神経を張りつめた日々も、眉毛が生え始めていた取材時には「まつげも抜けたからか、マイナンバーカード



の顔認証が反応しなかった」と笑い話に変わっていた。

一日でも長く、家族とともに

気

持ちの区切りをつける間もなく治療は続くが「つきあっていくしかない」と、からつと話す。妻も「早く見つかって治療ができたの良い方考えるだけ」。治療の目覚ましい進化を信じ「今後何かあっても、前向きに向き合っていく」と二人は話した。

真夏のような日差しが照りつける6月半ば、みかんの摘果作業をする姿を撮影した。「この間まで花だったのに、もうこんな

に実が。自然ってすごいよね」「マンゴーにバナナ、デコポン、ブドウもあるよ」と笑う一瀬

さん。「とにかく農業が好きですね。一日でも長く、家族とともに歩いていきたい」と語った。

ご家族で大切に育てられたびわ「なつたより」はまるっこくてやわらかく、食べる人の心をまるく和ませるやさしい甘さがした。



72歳
一瀬 利久さん
いちのせ としひさ

Interview



望む生き方を軸に、治療の最適解を見つける

取材・文・写真＝梅本真実



Interview

呼吸器外科部長
低侵襲治療センター副センター長
町野 隆介 医師
まの りゅうすけ

「息を吸って、吐いて」という行為を無意識的に繰り返し、私たち人間は生きている。一日約2万回もの呼吸を司る肺。たばこを吸っていなくても、若くても女性でも罹患する肺がんについて、町野隆介医師（呼吸器外科部長・低侵襲治療センター副センター長）に話を聞いた。

口

や鼻から取り込まれた酸素は気管を通り、気管

た原因は分かっていない。

支から左右の肺へ。木の枝のように広がる気管支の末端には、肺胞という小さな空気の袋がブドウの房のように集まりガス交換を担っている。細胞の遺伝子が何らかの原因で傷つくことでがん化。喫煙との関連が深く肺の入り口にできることが多い「扁平上皮がん^{（へんぺいじょうひ）}」、奥の方にできやすく非喫煙者や女性に多い「腺がん^{（せん）}」など様々な種類がある。最大のリスクは喫煙と考えられているが、はっきりとし

特有の症状はなく、咳や痰が続いていても風邪や気管支炎と区別がつかず知らぬ間に進行していることも。画像検査などでがんが疑われた場合、内視鏡検査や手術で組織を採り、病理検査^{※1}でがん細胞の有無を確認して診断を確定する。がんの種類、大きさや広がり、リンパ節や他の臓器への転移の有無を調べ、全身状態や本人の希望を考慮し治療方針を決定。手術・薬物療法・放射線療法を3本柱に、適した治療法を組み合わせる。

※1 患者から採取した組織や細胞を顕微鏡で観察してがんの有無を確定する検査。病変部によっては組織採取が難しく、肺がん手術と同様に病変部を切除して診断を確定することもある。

近

年、がん治療は検査技術や薬の進化により、個々人の体質やがんの性質に合った治療を選ぶ「個別化医療」の時代へ。抗がん剤の副作用を和らげる薬もアップデートされ続け、ここ10年で様相は様変わりしている。

当院での手術は、体への負担が極めて少ない内視鏡手術※₃「単孔式胸腔鏡下手術」を基本とする。「低侵襲な早期治療で、根治への希望を持てる時代になりつつある」と話す町野。ロボット支援下手術でも、通常5カ所の切開を2カ所に減らした手術が主流になってきている。一度切除したら、再生しない「肺」。手術に際しては、治療効果と術後に残る肺活量のバランスを慎重に検討。悪いものを切ることだけが全てではなく、手術の正解はその人ごとに違う。「望む生き方を軸に、それぞれの最適解を見つけてい

終

く」日々は、いつも難しさと隣り合わせ。思わぬ合併症が現れることもあり「リカバリーシヨットをどう打つかを常に考えている」と語る。

始々と、自身を俯瞰しているような冷静さをまとっていた町野医師。取材を終えると「表立って言うのは気が引ける」と言いながら表情を和ませ、「診察で患者さんの背景（職業や生活の様子）を聞くのが好きですね」と小さな声で言葉足し、病棟へと戻った。

プロフィール

1981年福岡県生まれ。2006年長崎大学医学部卒業、同大学腫瘍外科入局。県内外の医療機関を経て2024年2月から当院。研究よりも現場が好き。3人の子を持つ父。コロナ禍で料理に目覚め、週末は台所に立ち弁当用のストック総菜まで作る。家庭菜園で10種類ほどの野菜を育て「旬」に肺臓を癒される日々。



町野医師に聞く！

肺がんQ&A

Q 肺がんってなんですか？

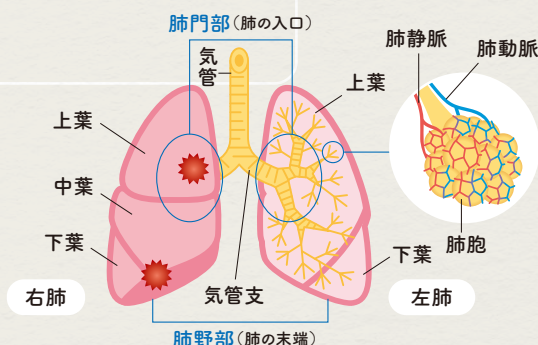
A 肺にできる悪性腫瘍。気管や気管支、肺泡の細胞が何らかの原因によりがん化したもので、細胞の形態（組織型）によって大きく「非小細胞肺がん（扁平上皮がんや腺がんなど）」と「小細胞肺がん」に分けられます。組織型によって薬の効きやすさや進行速度が異なります。

Q 自覚症状は？

A 進行するまで、特徴的な症状はありません。風邪ではないのに2週間以上咳や痰が続く場合、長引く発熱や血が混じった痰が出る場合はかかりつけ医を受診してください。

Q どんな治療をするの？

A 手術、放射線治療、薬物療法（抗がん剤など）が基本です。がんの種類・病期（進行度）・全身状態を診て治療方針を決めます。がん細胞の遺伝子を調べる技術や薬の進化で、一人ひとりに合わせた精密な治療ができるようになってきています。これまで切除不能とされていた症例でも、術前に抗がん剤を使いがんを縮小させることで切除可能になる方も見られるようになってきました（全例ではありません）。



Q 原因は？

A 最大のリスクは喫煙と考えられていますが、はっきりとした原因は分かっていません。肺がんに限らず、他の病気で手術を受ける際にも肺機能は手術の安全性に関わります。何かにつけ、たばこは吸わない方が望ましいです。

※2 右肺は3つ、左肺は2つの肺葉に分かれ、肺葉はさらにいくつかの区域に分けられる。手術は、がんがある肺葉を切除する「肺葉切除術」が最も一般的。状況に応じて、区域ごと切除したり、区域の一部を部分切除したりすることもある。進行すると手術は難しく、薬物治療が中心となる。

※3 小さな傷1カ所のみで行う術式。詳しくは「P5医療ルポ現場のまなざし」をご参照ください。

現場のまなざし

必要最小の傷で治療 早期社会復帰を支える

患者さんのよりよい明日に向け連携する専門職たち。
その姿を写真で紹介します。

Vol.5
体にやさしい肺がん手術

呼吸器外科
単孔式胸腔鏡下肺がん手術
たんこうしききょうようふうがんしゅと

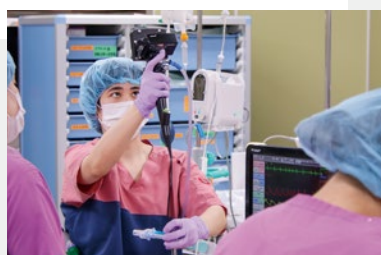
当院が基本とする「単孔式胸腔鏡下手術」。単孔式とは、その名の通り小さな傷1カ所のみで手術を行う術式。脇腹など目立たないところを4cm程切開。そこから胸腔鏡（カメラ）や鉗子など複数の手術器具を入れる。モニターに映し出された患部を見ながら、肺につながる血管や気管支を周りの組織から剥がし自動縫合器で切断。病変のある肺葉や区域を切り離し取り出す。

肺は肋骨に囲まれた胸腔と呼ばれる場所にある。従来の肺がん手術は、開胸して筋肉や肋骨を切って行う大手術。骨の近くには神経が走っており、術後に長く続く神経痛に悩まされる患者も多い。

その後主流となった複数の穴を開ける胸腔鏡手術（3〜4カ所）や、最新のロボット支援手術（5カ所）よりも、さらに体への負担が少ない単孔式手術。痛みのもとになる切開が1カ所のため慢性痛も生じにくいとされる。



単孔式手術による切開の実物大
1円玉（直径2cm）2枚分程度



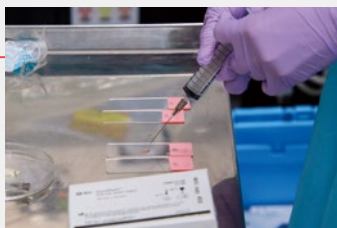
麻酔科医

患者の全身状態を管理
肺がん手術では片方の肺だけで呼吸を続けるという特殊な操作が必要なため、より高度な技術が求められる



看護師

麻酔や器械出しの介助、記録、患者の状態観察などチーム全体を幅広く支える



臨床検査技師

採取した検体を顕微鏡で見られるように処理する
疑わしい細胞に当たりをつける

■病理検査で診断を確定

検査や手術で採取した病変部の組織や細胞を
顕微鏡で観察し、がん細胞を確認する
ことで診断が確定する
術中の限られた時間内に病変部が
良性か悪性かを判断したり、リンパ節転移の有無を
診断したりする「術中迅速病理診断」で、
より適切な手術を可能にする



病理医

腫瘍組織を顕微鏡で観察し、がんの種類を特定
するとともに、悪性度や腫瘍の進展の程度、
転移の有無を診断する。
診断に際しては、複数の病理医で確認する

一日でも早く
日常を取り戻せるように



医師

一つの穴から複数の器具を入れる単孔式手術は、
複数の穴を開ける胸腔鏡下手術やロボット支援手術と
比較し特殊な器具も必要となり、メインの術式として
採用している病院は国内にまだ少ない
「患者さんの負担軽減を」と、ロボット手術でも
傷口（ポート）の数を減らそうと技術の研鑽に
努めている



JOB

スペシャリスト

高度化し、専門分化が進む医療。その現場には、高度な技術を持つと認められたスペシャリストたちがいる。



#05

細胞検査士・ 認定病理検査技師

かたふち すなお
片瀬 直

臨床検査技術部次長・臨床検査技師（健康状態や病気の
原因を調べるための検査をする医療技術職）／在職27年

細胞検査士：細胞を顕微鏡で観察し、異常細胞やがん細胞を
見つける専門家（日本臨床細胞学会認定）
認定病理検査技師：採取した組織や細胞を顕微鏡で観察でき
る状態に加工し、病理医による診断を支援する病理検査技師
の中でも特に高度な知識と技術を持ち、精度の高い病理組織
標本作成や病理部門のマネジメント能力を有する

検査の向こうには患者さんの人生がある

病気の診断、原因究明のために行う病理検査。手術や内視鏡検査で採取した組織や細胞を顕微鏡で観察し、異常細胞やがん細胞を見つけます。様々な工程を経て検体を顕微鏡で観察できる状態に加工したものを、病理標本と呼びます。病理医が組織や細胞の形、色の特徴を読み解くことで診断名が確定し、治療方針が決まります。精度の高い標本作りは正確な診断につながり、治療に直結するととても重要な仕事です。

学生時代は苦手意識のあった病理分野。実

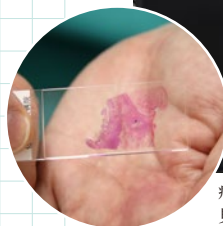
務と勉強を重ねるうちにその奥深さに惹かれ、専門資格を取得しました。臨床検査の多くが機械化されるなか、職人技のような細かい手作業で行う標本作り。組織の切り方や染色の仕方で、見え方は変わります。医師が判断しやすいように、きれいな標本を作る技を極めることも仕事の醍醐味です。

「検査標本の向こうには、患者さんやご家族の不安や期待、人生がある」。そのことを忘れずに、信頼される医療の一端を担えるよう責任感を持って業務に取り組んでいます。



ほわくろ〜の Close up

組織標本は、検体をわずか数 μm （マイクロメートル・ $1\mu\text{m}=0.001\text{mm}$ ）に切り出したものなんだから！標本づくりにはたくさんの工程があって、ピンセットなどを使った細かい作業のオンパレード。AIにはできない職人技なんだよ！薄〜い標本の中には、目には見えない身体の細胞が宇宙のように広がっているんだね！



病理診断が終わった標本は保管し、再発・転移が見つかった場合や研究に使われる

公式マスコットキャラクターが誕生しました！

当院の臨床研修センター「NEXT」の応援キャラクターとして2025年4月に誕生し、主に研修医のサポートとして活躍していた「ほわくろ〜」が、病院の公式マスコットキャラクターとして公認されました！



名前の由来

法人の名称である「白十字」→「ホワイトクロス」から地域の皆さまから信頼され愛される病院を目指し、より親しみを持っていただけるよう、「ほわくろ〜」と一緒に歩んでまいります。広報誌や当院主催の行事など、病院の様々なところに登場するかも?! ぜひ、探してみてください！

再来受付機を導入しました

当院は2026年6月より「再来受付機」を導入しています。診療予約のある再診患者さんは「再来受付機」で受付後、各診療科窓口までお越しください。

受付時間 予約時間の1時間前から
※8時から使用可能です。

受付場所 1階ロビー

利用方法 ①マイナンバーカードをマイナタッチに置く、もしくは診察券をカードリーダーにてスライドして受付する。
②受付票が2枚（受診診療科用・患者用）発行される。
③受付票を各診療科窓口へ提示する。

※再来受付機で受付できない方は、6番窓口にて申し出ください。

（初診・ご予約のない方、再来受付機でエラー表示が出た方など）



待ち時間の減少・院内混雑の緩和が期待されます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

イベント開催情報

市民公開講座

家族で知る、触れる、未来の医療

～体に優しい最先端手術のいま&1day外科医体験チャレンジ～
当院医師による講演、様々な医療機器の展示、学生向けの医療機器体験コーナーなどを準備しております！ご来場、お待ちしております！

開催日程

2026年10月10日(土) 13:30～15:30

会場：アルカスSASEBO

定員500名

参加申込不要

※詳細は病院ホームページをご確認いただくか、担当者へお問い合わせください。

お問い合わせ

市民公開講座事務局 ☎0956-33-7151(代表)

学生向け体験コーナーのみ事前申込制です。上限に達し次第、締め切りとなりますのでご了承ください。



地域感謝祭

当院の運営に際して、日頃よりご理解とご協力をいただいております地域の皆さまへ感謝の気持ちを込めて、昨年に引き続き「地域感謝祭」を開催いたします。たくさんのご来場、お待ちしております！

開催日程

2026年11月14日(土) 10:00～15:00

会場：佐世保中央病院

開催概要

特設ページ(病院ホームページ内)にて、最新情報をご確認ください。

地域感謝祭
特設ページ



マイナ保険証のご準備をお願いします

健康保険証がマイナンバーカード(マイナ保険証)へ移行するにあたり、従来の健康保険証は2025年12月2日以降、原則使用できなくなりました。

ご受診の際は「マイナ保険証」のご準備をお願いいたします。お持ちでない方は「資格確認書」をご利用ください。

マイナ保険証のメリット

患者さんの同意に基づき、他の医療機関で処方された薬や健診結果の情報がスムーズに共有されます。初めて受診される医療機関や薬局でもすぐに内容が確認でき、よりよい医療をお受けいただけます。

マイナ保険証の利用方法

医療機関・薬局の顔認証付きカードリーダーや、マイナポータル・コンビニエンスストアから登録可能です。詳しくは、厚生労働省ホームページをご確認ください。

厚生労働省ホームページはこちら



表現者 MOCO

就労支援B型事業所シルク印刷工房わくわくワーク（佐世保市潮見町）で昨年から活動。幼少期から絵を描くことが好きで、主に色鉛筆を使って生き物や風景などを描く。表紙絵「おいしい時間」には、見る人が明るく楽しい気持ちになれるようにとの思いを込めた。自身の絵が商品化されることを目標に、人とのつながりや社会とのつながりを大切にしながら日々作品を生み出している。

表紙を飾る作品は、佐世保地区障がい者就労支援協議会加盟事業所に通われる利用者の方々から応募いただいたものです。応募作品23点は全て、当院1階の売店前に展示しております。是非ご覧ください。



作品名：おいしい時間

INFORMATION

外来受診をご希望の方へ

すべて時間帯予約制となっておりますので、お電話にてご予約ください。初めて受診される方は、原則としてかかりつけ医療機関からの紹介状が必要です。紹介状が無い場合、通常の診療費に加えて初診時選定療養費7,700円（税込）をご負担いただきますので、ご了承ください。

■紹介状がある方

☎0120-33-8293（地域医療連携センター）

■再診/紹介状のない方

☎0800-7000-888（コールセンター）

※土日祝は休日診療体制です。

※救急部は24時間体制です。

※医師の都合により休診となる場合があります。

Instagram

インスタはじめました。
フォローよろしくお願いします！



就労支援相談会のご案内

がん・肝炎・糖尿病など、長期療養が必要な方を対象に開催しています。ご希望の方はお気軽にご連絡ください。

■開催日 毎月第1水曜日10:00～14:00

■内 容 治療と仕事の両立について
体調に合わせた職業紹介制度のご案内など

■お問合せ がん支援相談センター ☎0956-33-7151

健診をご希望の方へ

すべて予約制となっております。窓口へお越しいただくか、電話またはホームページよりご予約ください。

■ご予約・お問合せ

予防医療センター

☎0956-33-5335 fax0956-33-5336

✉sch-kenkoh@hakujuujikai.or.jp

■受付時間

平日9:00～12:00／13:00～16:00



ホームページは
こちら

voice

「はばたき」のご感想や
ご意見などをお聞かせください。



archive

過去の「はばたき」は
ホームページよりご覧いただけます。



STAFF

〔取材・文〕梅本 真実

食いしん坊・暴れん坊姉妹の母。元新聞記者で現在はフリーランス。

〔写真〕中村 友香

フリーカメラマン。さりげなくもかけがえのない瞬間を逃さない。

〔デザイン〕ASHITAKA DESIGN

佐世保を拠点にデザインの可能性を探索・挑戦するクリエイター。

〔印刷〕オムロプリント

心揺さぶるものづくりで人と人を繋げる。日々新たな価値創造に挑み続ける。

〔協力〕佐世保地区障がい者就労支援協議会

「福祉が育つ街づくり」をモットーに誰もが住みやすい街づくりを目指す。